



大証金 ファクト・ブック

平成24年3月期第2四半期決算の概要と今後の経営方向

平成23年11月17日(大阪)
平成23年11月18日(東京)

大証金

<http://www.osf.co.jp/>



目次

1. はじめに			
(1) 会社の特色	3		
(2) 制度信用取引をバックアップする「貸借取引」	4		
[参考]大阪市場における制度信用取引残高と貸借取引残高の推移	5		
2. 平成24年3月期第2四半期決算の概要			
(1) 決算の推移	6		
(2) 営業収益	7		
(3) 営業費用	8		
(4) 一般管理費	9		
(5) 資金運用残高	10		
(6) 運用・調達利回り、利鞘	11		
(7) 利鞘収入	12		
3. 経営指標の状況	13		
(1) 格付け			
(2) 自己資本規制比率/自己資本比率			
4. 今後の経営方向			
(1) 中期経営計画における「目標」の実現	14		
(2) 平成24年3月期業績等の見通し	15		
5. 貸借取引の基盤拡充			
(1) JASDAQ市場における貸借と取引の状況	16		
(2) 貸借取引取扱銘柄拡大に向けた取り組み	17		
6. 営業態勢の強化	18		
(1) 商品性の向上			
(2) 東京支社の組織改編			
7. 経営合理化の推進	19		
(1) リスク管理と収益力強化の両立			
(2) 経営資源配分の見直し			
(3) 経費削減の徹底			



1. はじめに

(1) 会社の特色

- 証券市場に良質・低利な資金を安定的に提供することが使命
 - ・ 金融商品取引法上の免許業務である貸借取引業務の担い手
株大阪証券取引所の指定証券金融会社
 - ・ 貸借取引業務のほか、金融商品取引業者向け貸付業務、証券担保ローン業務、
有価証券貸借業務等を通して証券市場の機能発揮をバックアップ

- 大証(昭和25年)、東証(平成12年)に株式を上場
 - 役職員数は約90名、営業拠点は大阪本店と東京支社(平成23年9月末現在)

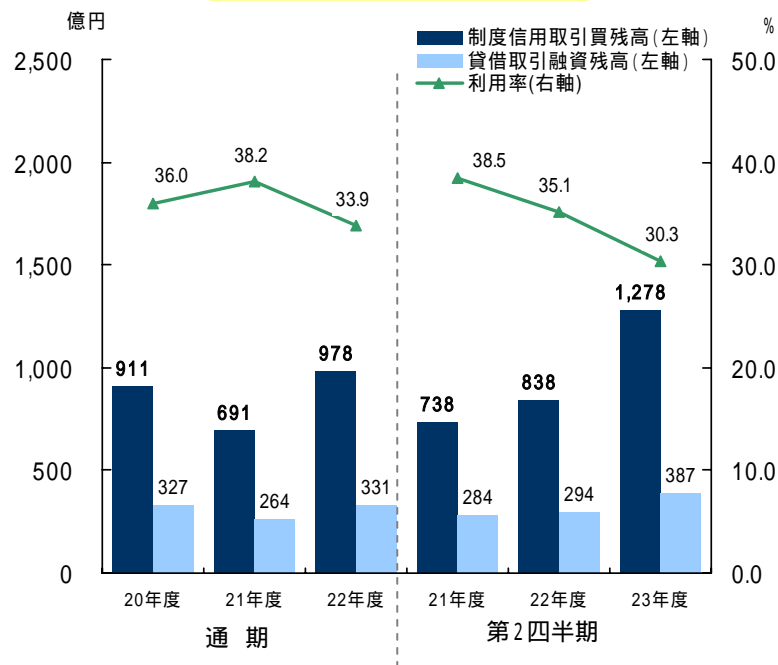


(2) 制度信用取引をバックアップする「貸借取引」

当社は(株)大阪証券取引所の指定証券金融会社として、制度信用取引の決済に必要な資金や株券を同取引所の決済機構を利用して金融商品取引業者に貸し付ける貸借取引を担っている。

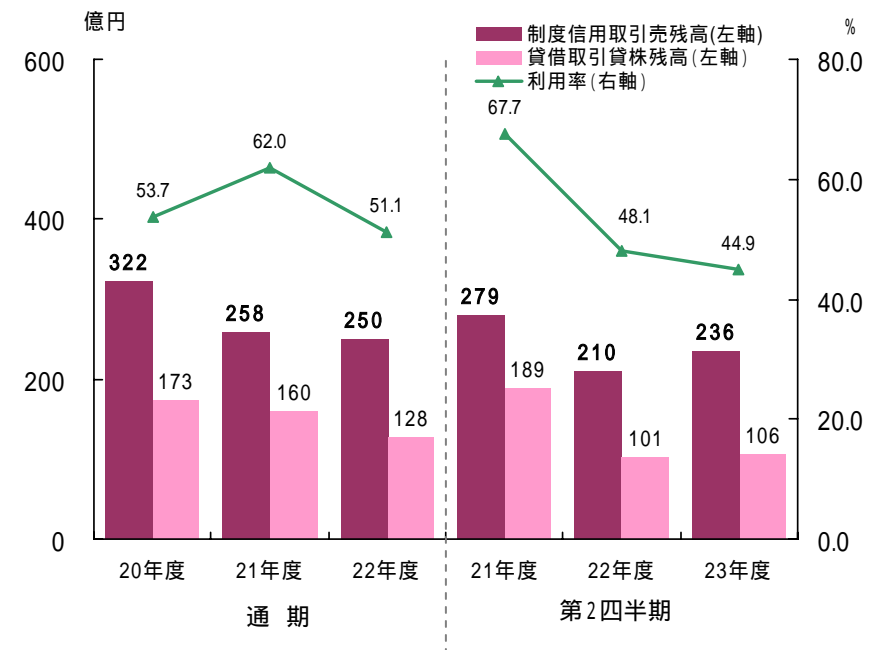
(注)貸借取引は、株式の需給投合を円滑にし流動性を高めるとともに、公正な価格形成に資することを目的として導入された信用取引制度をバックアップするための制度金融。

貸借取引融資残高と利用率の推移



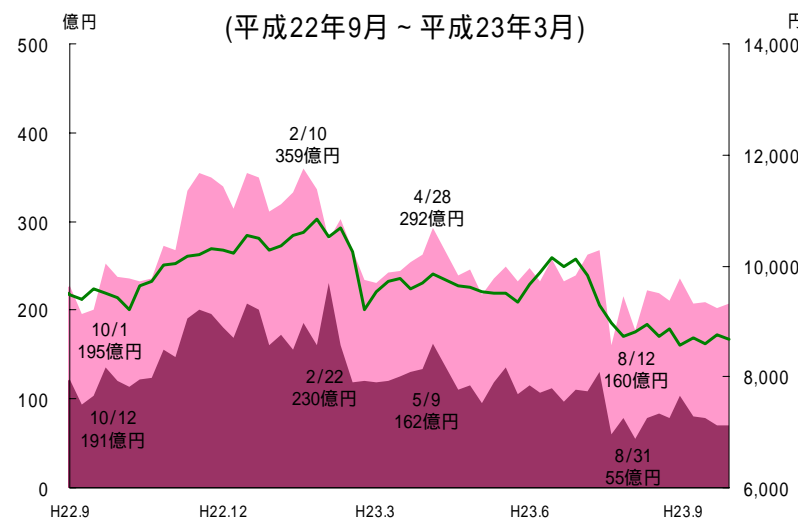
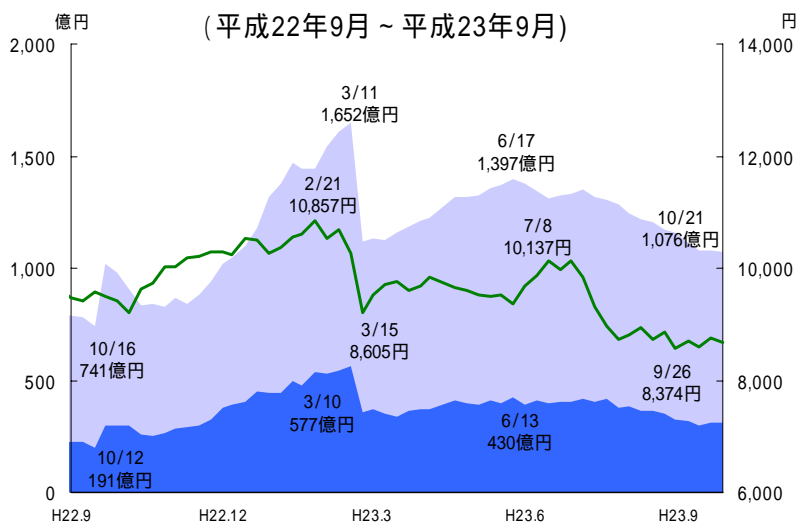
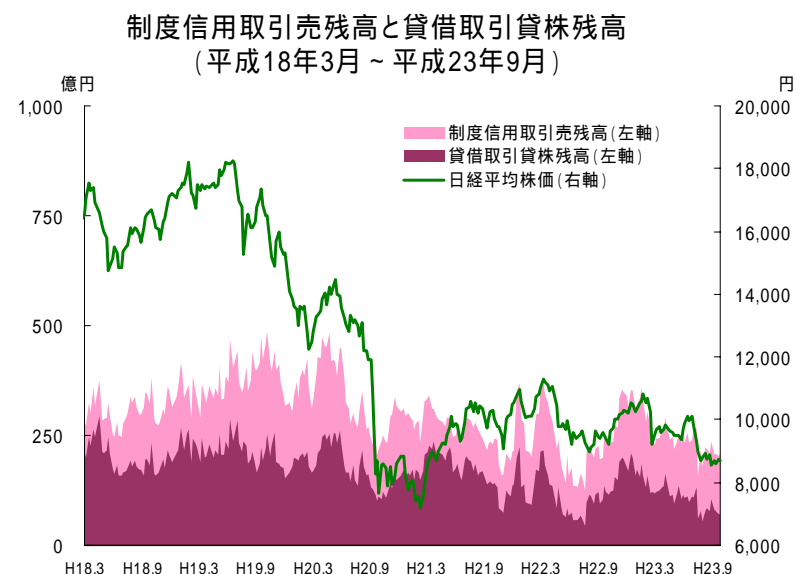
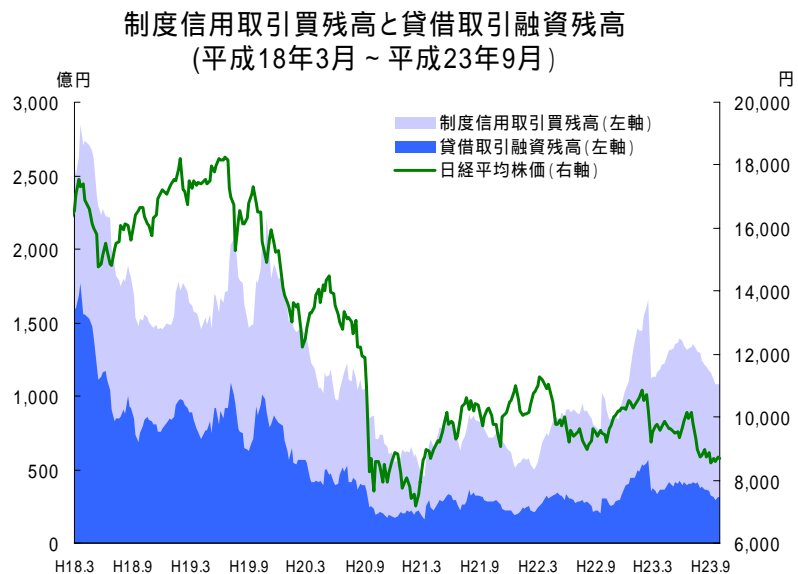
(注) 平均残高ベース

貸借取引貸株残高と利用率の推移





[参考]大阪市場における制度信用取引残高と貸借取引残高の推移



(注) 平成22年10月12日以降は新JASDAQ市場の残高を含む。

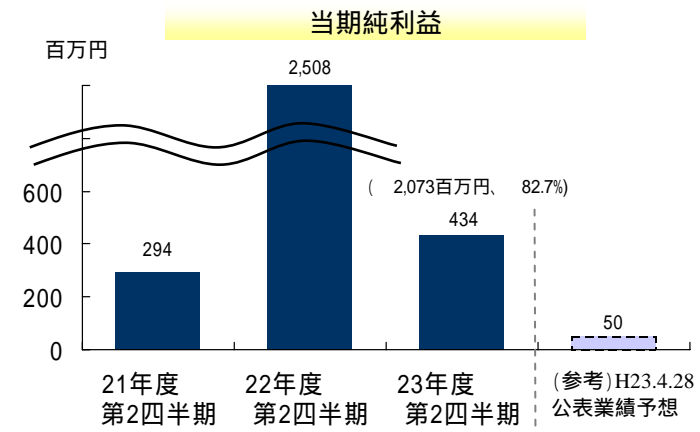
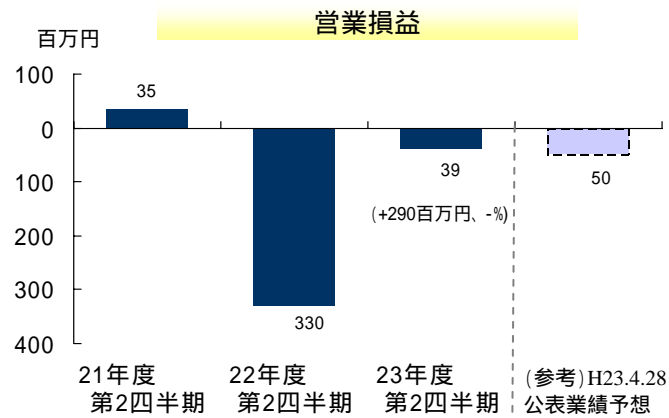
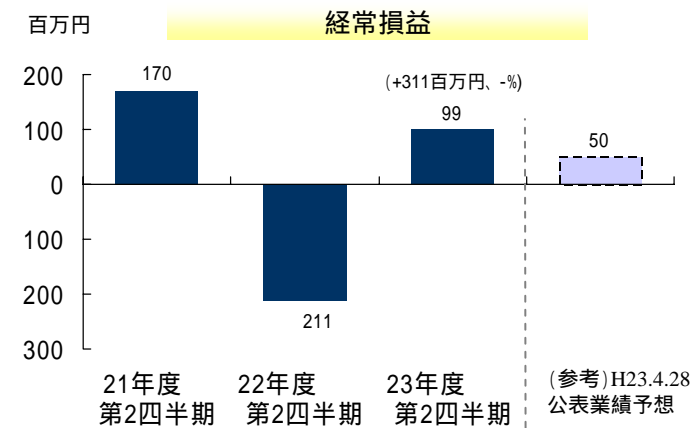
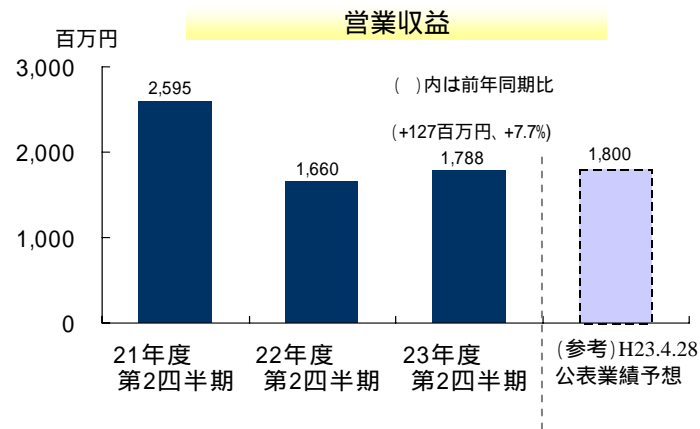


2. 平成24年3月期第2四半期決算の概要

(1) 決算の推移

営業収益の増収に加えて一般管理費が減少したことから、営業損益の赤字幅は縮小し、経常損益は黒字に転換。

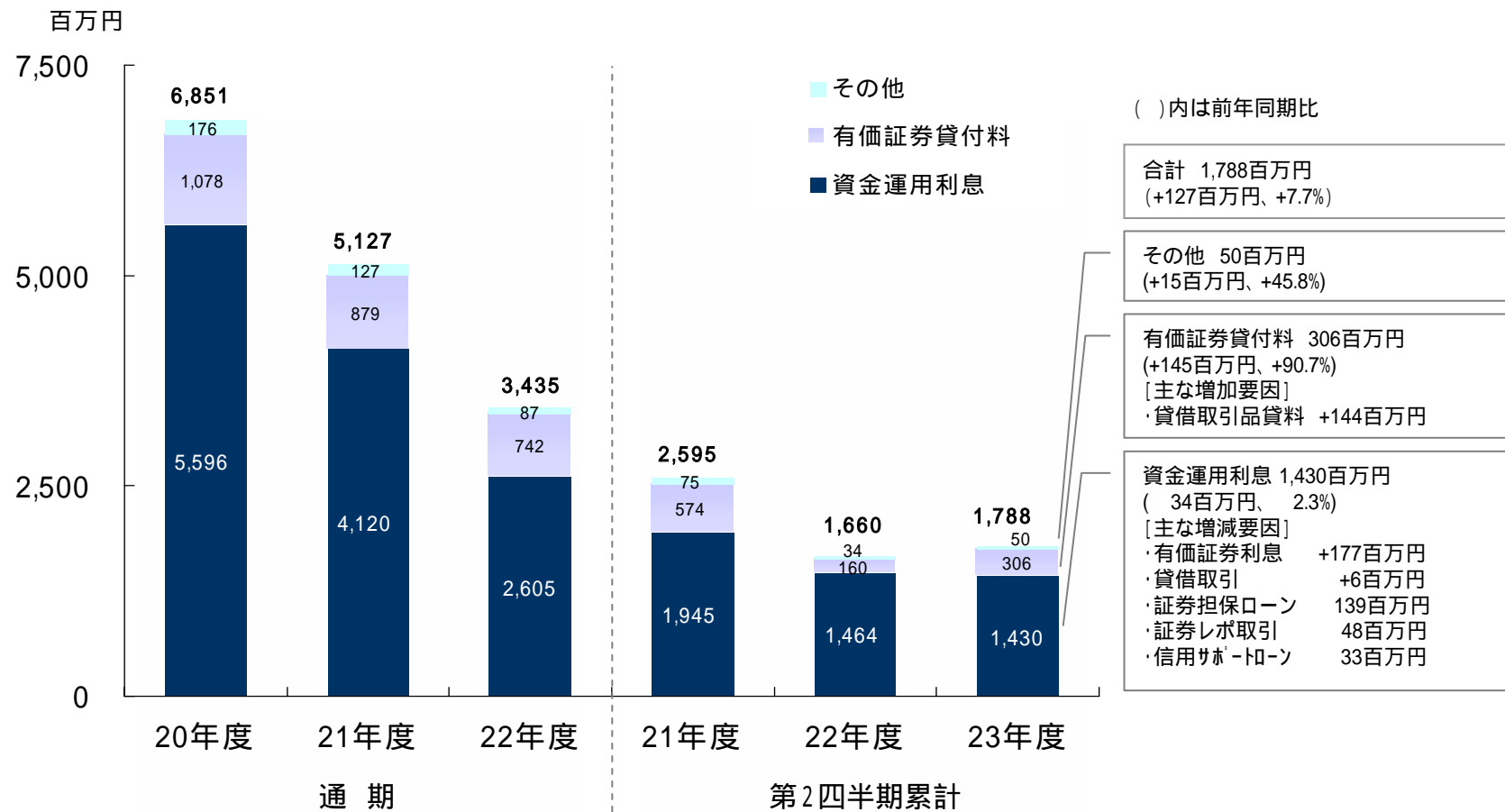
当期純損益の黒字幅は投信分配金にかかる特別利益の計上もあって予想に比べて拡大。





(2) 営業収益

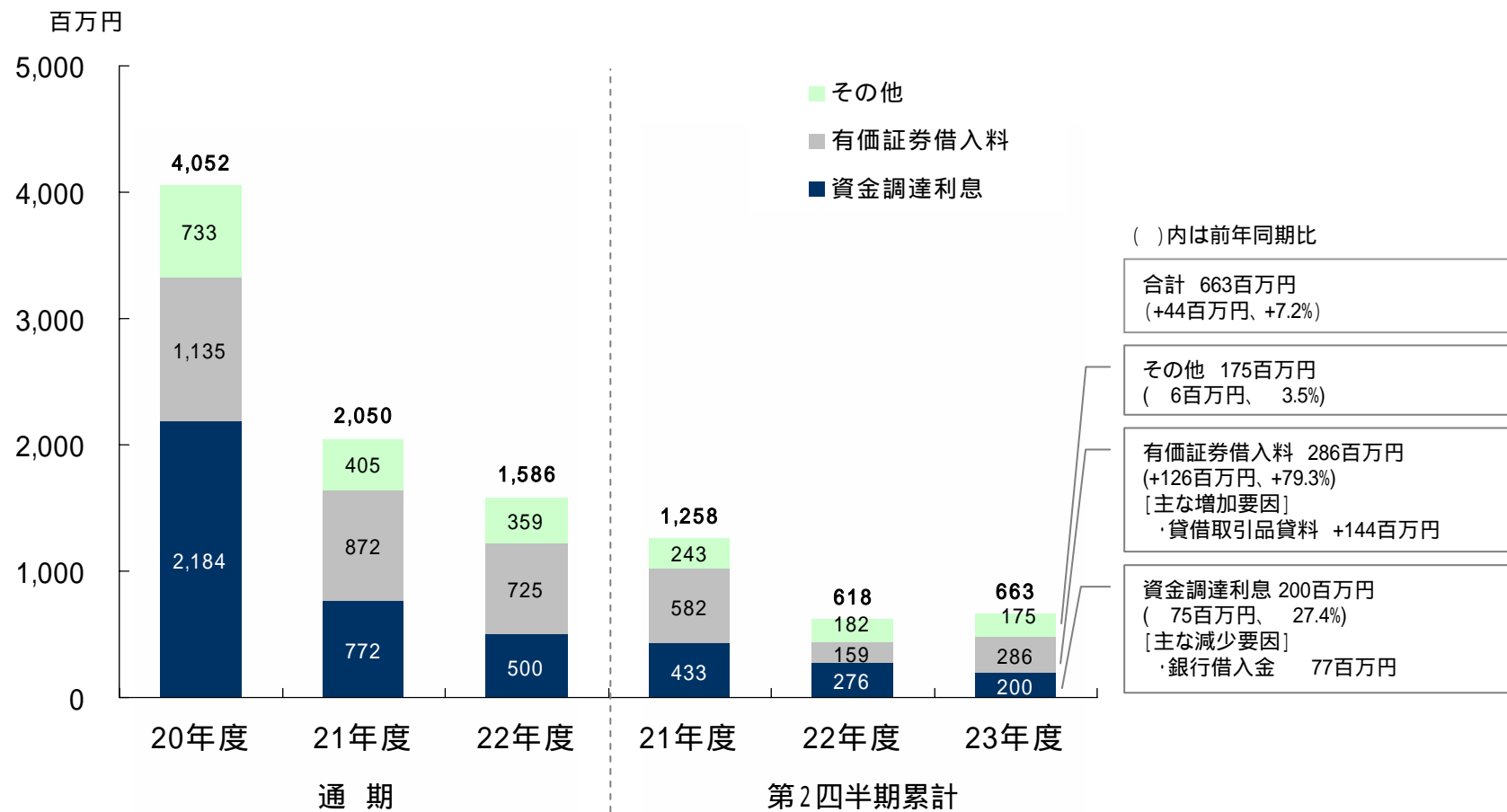
有価証券利息等の増加を主因に、営業収益は増収。





(3) 営業費用

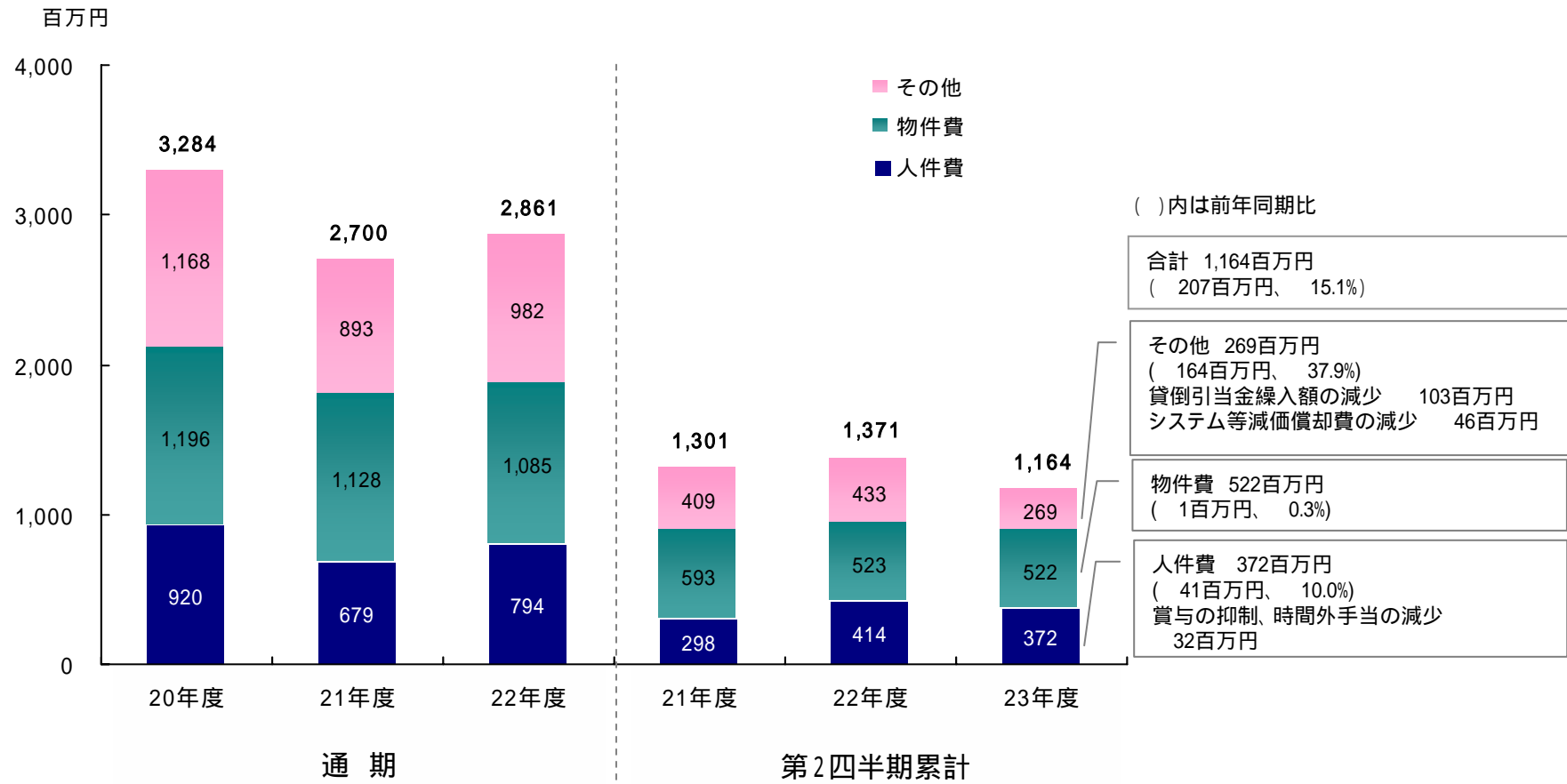
営業費用全体としては幾分増加している中であって、資金調達方法の見直しなどにより資金調達利息は減少。





(4) 一般管理費

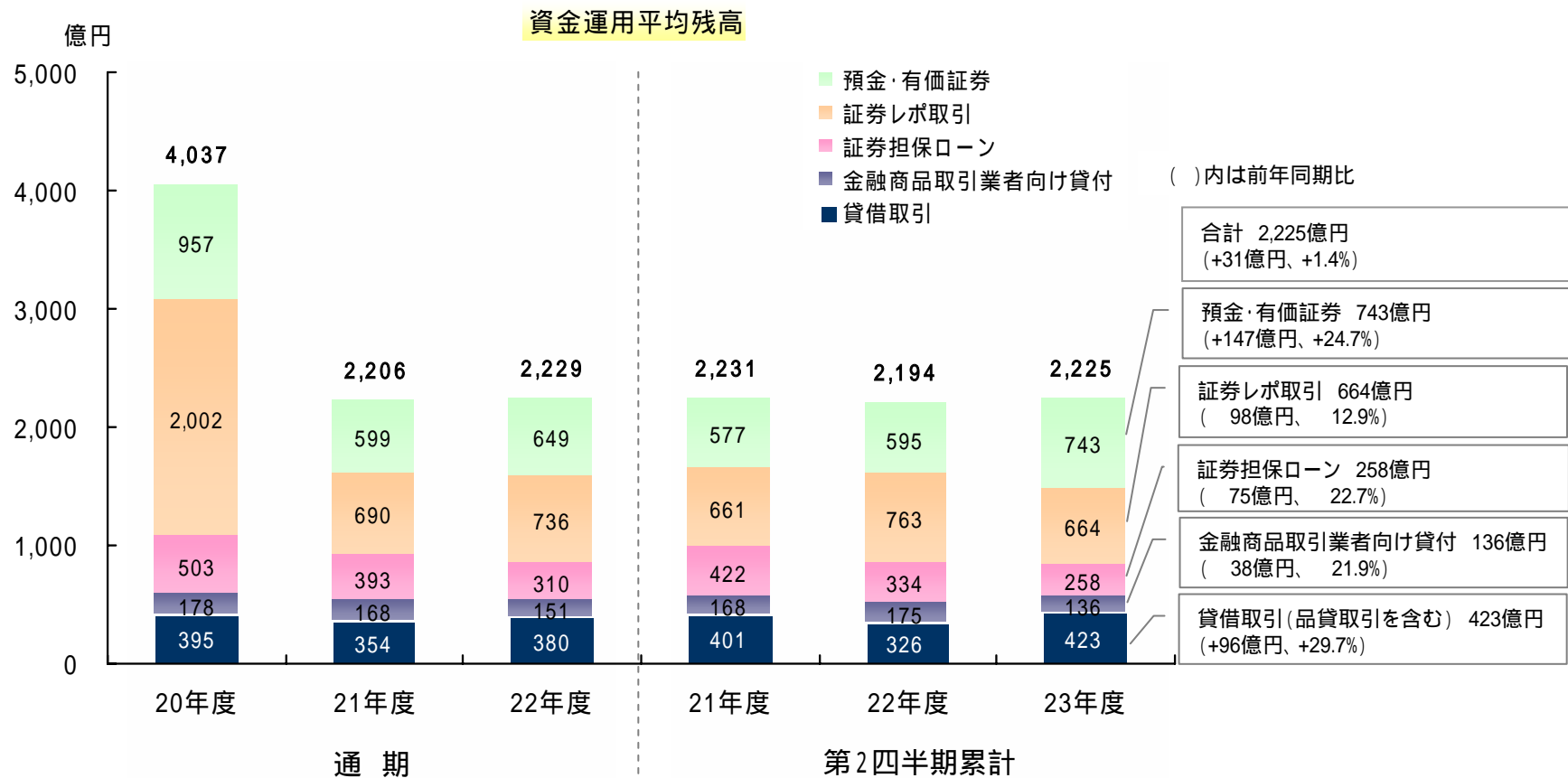
貸倒引当金繰入額の減少やシステム投資の抑制効果等から減少。





(5) 資金運用残高

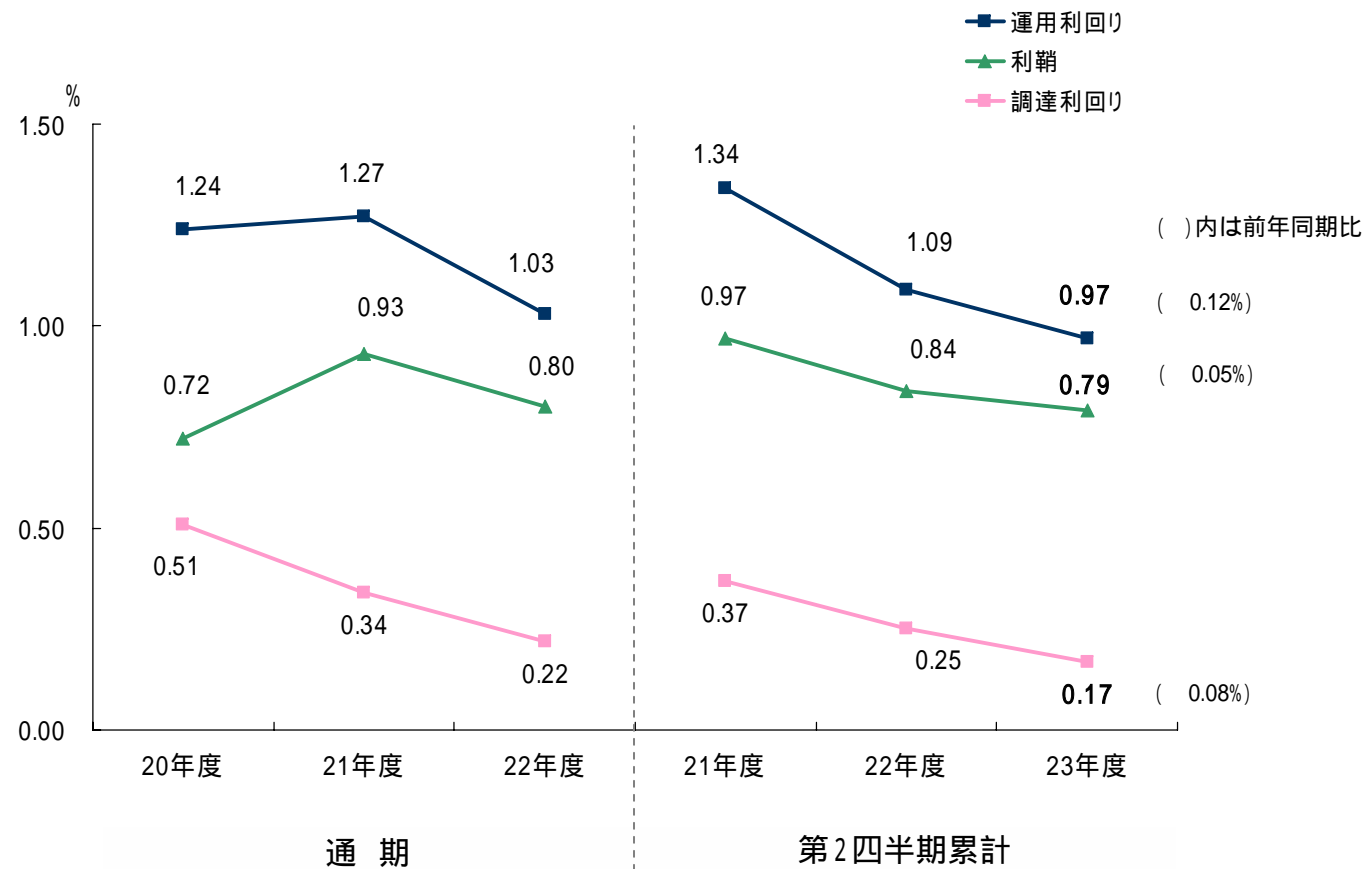
証券担保ローンや証券レポが減少したものの、
貸借取引、有価証券運用が増加したことから運用残高は微増。





(6) 運用・調達利回り、利鞘

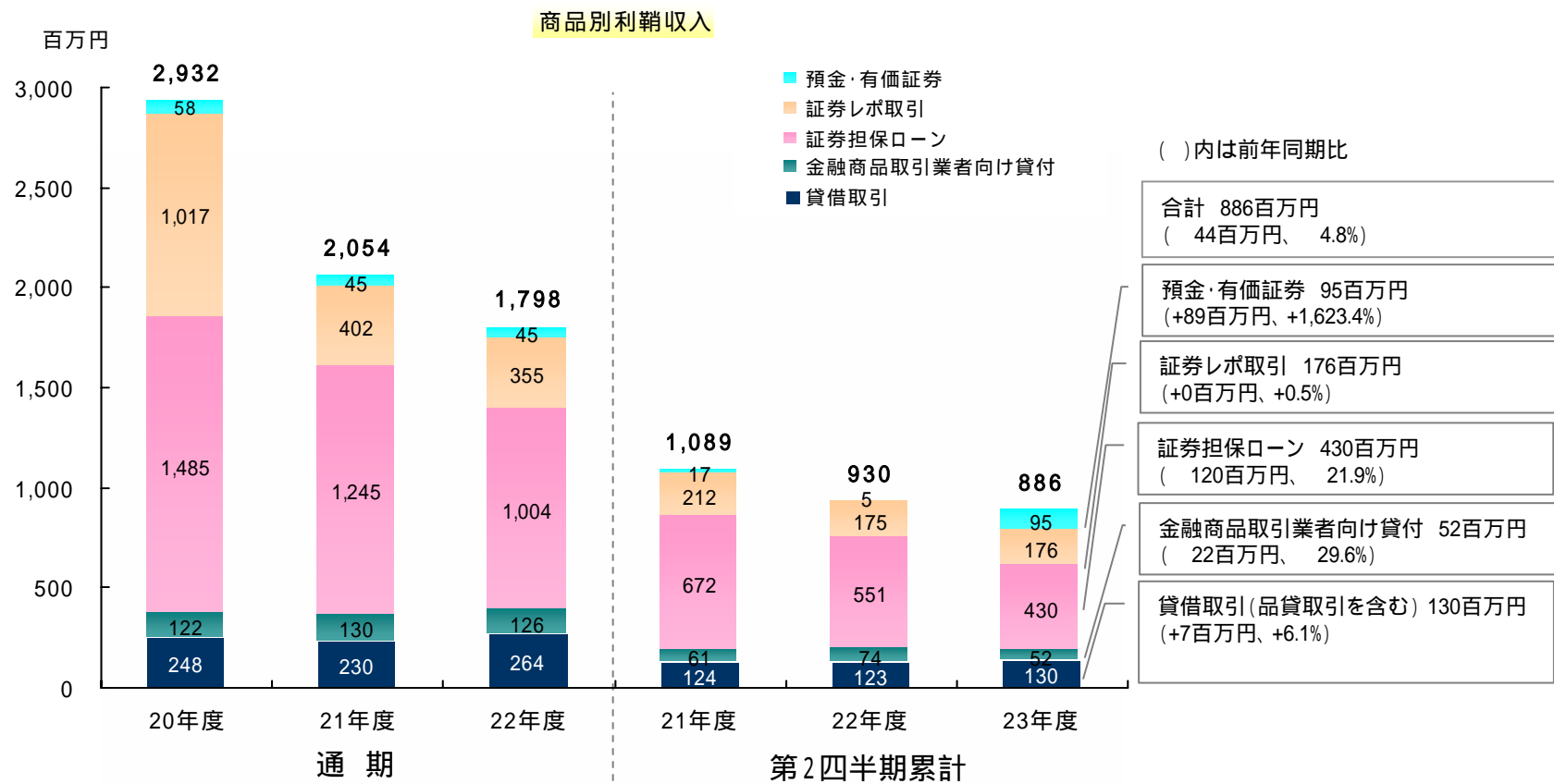
資金調達方法の見直しなどにより調達利回りが一段と低下したものの、証券担保ローンの減少などによる運用利回りの低下から、利鞘は幾分縮小。





(7) 利鞘収入

有価証券運用収入は増加したものの、証券担保ローンの運用残高減少が響き減収。





3. 経営指標の状況

(1) 格付け

資産の健全性、リスク管理態勢が評価され、格付け維持。

格付機関	公表日	長期	短期(国内CP格付)
R&I (株)格付投資情報センター	平成23年9月21日	A- (安定的)	a-1
JCR (株)日本格付研究所	平成23年4月12日	A- (安定的)	J-1

(2) 自己資本規制比率 / 自己資本比率

自己資本規制比率は一般的に健全性の目安とされる200%を大きく上回る水準を維持。

	平成23年9月末	参考
自己資本規制比率 (金融商品取引法基準)	421.7%	金融商品取引業者平均 589.6% (平成23年6月末現在)
自己資本比率 (BIS基準)	25.9%	・国際統一基準行平均 15.2% (平成23年3月末現在) ・国内基準行平均 11.3% (平成23年3月末現在)



4. 今後の経営方向

(1) 中期経営計画における「目標」の実現

【基本認識】

貸借取引業務の担い手として市場振興に努めるとともに、経営環境の変化に弾力的に対応しつつ、顧客基盤の拡充その他の経営基盤強化策を着実に推進し、企業価値の向上に邁進する。

1	「証券のための金融、証券による金融」を創業時以来の社会的使命として再認識し、貸借取引業務を核として証券市場の発展に貢献する。
2	お客様の視点に立ち、質の高いサービスを提供し、顧客基盤の拡充強化を図る。
3	営業基盤の強化、合理化の徹底により、収益力の強化、さらなる自己資本の回復に努める。
4	リスク管理およびコンプライアンス体制の徹底を重要課題と認識し、PDCAサイクルを継続して実践する。

【経営目標】

1	安定的な収益基盤の拡充を図り、持続的な業績向上を目指す。
2	優先株配当を堅持すると同時に、普通株についても早期に1株当たり年6円配当に復配し、安定配当の実施に努める。
3	財務内容の健全性の維持、向上に努め、安定的な企業経営に必要な水準を確保する。



(2) 平成24年3月期業績等の見通し

平成24年3月期第2四半期の業績の動向を踏まえ、平成24年3月期通期業績予想を修正。

単位:百万円

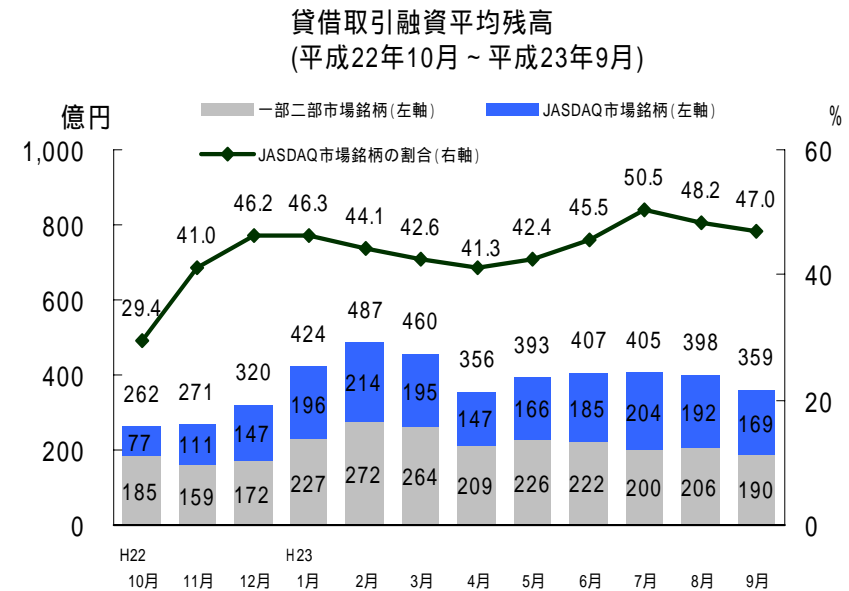
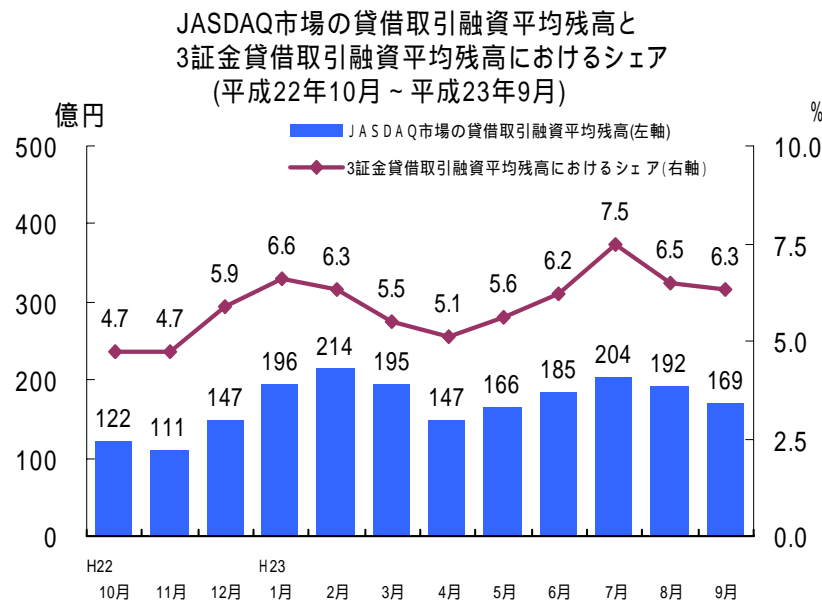
		平成23年3月期 通期実績	平成24年3月期 第2四半期実績	平成24年3月期通期見通し	
				前回予想 (4月28日公表)	今回予想 (10月25日公表)
営業収益		3,435	1,788	4,000	3,800
営業利益(損失)		1,012	39	200	100
経常利益(損失)		795	99	450	300
当期純利益		3,265	434	450	600
一株当たり 配当金	優先株式	14.00円	0.00円	14.00円	14.00円
	普通株式	3.00円	0.00円	3.00円	3.00円



5. 貸借取引の基盤拡充

(1) JASDAQ市場における貸借取引の状況

- ・ 株式市況の低迷から貸借融資残高は震災前の水準を下回る水準にとどまっているが、他市場対比では相対的に堅調に推移。
- ・ 当社の貸借取引融資残高におけるJASDAQ市場銘柄の融資残高のウェイトは5割程度に上昇。
- ・ 3証金の貸借取引融資に占める当社シェアは新JASDAQ市場発足前の8%前後から最近では14～15%程度に上昇。



(注)平成22年10月の平均残高は市場移行前のJASDAQ市場およびヘラクレス市場の残高を含む。



(2) 貸借取引取扱銘柄拡大に向けた取り組み

- ・ 発行会社、大株主等へのアプローチを強化し、借株先の拡充、強化に努める。
- ・ 機関投資家、金融商品取引業者との接触を密にし、品貸取引参加者の拡大に注力する。

(貸借取引取扱銘柄の動向)

	合計	うちJASDAQ
平成22年10月12日 (A)	1,769	999
平成23年11月12日 (B)	1,702	964
増減(B - A)	67	35
新規選定	+15	+13
選定取消	82	48

(注) 増減は、持株会社への移行に伴う銘柄変更を除く実質の計数。

(新規上場企業の推移)

	平成 19年	20年	21年	22年	23年
JASDAQ	49	19	8	10	14
ヘラクレス	25	9	1	0	
東証1・2部	13	7	6	6	5
マザーズ	23	12	4	6	8
その他	11	2	0	0	0
合計	121	49	19	22	27

(注) 平成23年は10月末時点の上場企業数



6. 営業態勢の強化

(1) 商品性の向上

ビジネスローン

- ・貸付手形書換期間の延長(3か月→1年)、担保提供方式の変更(「個別差入書方式」「口座設定方式」等) (23年7月～9月)

コムストックローン

- ・リアルタイム融資の導入、携帯サイトにおける残高試算機能の追加(23年9月)

(2) 東京支社の組織改編

- ・営業部と資金証券部の垣根を取り除き、支社における一体的な営業推進体制を構築

(コムストックローンの取扱状況)

単位:百万円

	新規	返済	増減
22年 7～9月	1,581	1,593	12
10～12月	1,519	1,673	154
23年 1～3月	2,601	2,823	222
4～6月	1,558	1,472	+86
7～9月	1,877	1,654	+223

(コムストックローン<提携>の取扱状況)

単位:百万円、()内はウェイト%

	新規貸付額	うち即時融資
9/20～30日	224	143(63.7)
10/3～31日	367	255(69.5)
11/1～9日	111	84(75.9)

(注)平成23年9月20日以降、リアルタイム融資を導入



7. 経営合理化の推進

(1) リスク管理と収益力強化の両立

- ・ 証券担保ローンにつき、リスク管理の徹底を図ると同時に、優良顧客に対しては貸付期間、融資限度額や適用金利の弾力的運用の受皿を用意。

(2) 経営資源配分の見直し

- ・ コムストックローンのうちカードローンについては、取扱終了の方向で検討。

(3) 経費削減の徹底



本資料には、当社の業績に関する将来の予想、見通し等の記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績の実現を保証するものではなく、不確実性やリスク要因が含まれているため、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。